

## 山口県臨床工学技士会の社会的認知度向上の取り組み

末廣孝太郎

山口県厚生農業協同組合連合会 小郡第一総合病院 臨床工学科

山口県臨床工学技士会では、平成 29 年 5 月 5 日（祝金）に山口市中央商店街で行われた「第 44 回青空天国いこいの広場」におきまして、臨床工学技士体験セミナー「いのちのエンジニア体験会」のブースを開設させていただきました。初めての山口での開催でしたが、福岡県臨床工学技士会の皆様にお力添えをいただきまして大盛況で終える事が出来ました。「青空天国いこいの広場（通称：青天）」とは毎年 5 月 5 日（こどもの日）に山口市で開催されている親子向けのイベントであり来場者数約 5 万人の大規模なイベントです(写真 1)。



写真1 イベントパンフレット

毎年、山口県内の全小中学生にパンフレットを配布することもあり、山口市では「5月5日と言えば青天」と言うくらい認知度のあるイベントであるため、小中学生やその親御さんにも臨床工学技士を知ってもらうには最適だと考えました。ボランティア団体主催のイベントなので出展料は無料でした。色々な職種体験が出来るブースがあり調理師やゲームプログラマー、伝統工芸の大内塗職人に加え臨床工学技士も体験セミナーをしました。東亜大学臨床工学コースの学生にも手伝っていただき技士スタッフ 18 名、学生スタッフ（大学の先生含む）13 名の計 31 名で行いました（写真 2）。大学スタッフにはスタッフの役割を事前に教育していたのでイベント当日は慌てずに説明ができていました。

体験セミナーの参加者は全部で 97 組（大人 104 名、子ども 142 名）子どもは 3～17 歳（平均年齢 7.8 歳）と幅広い年齢の方に体験していただきました。



写真2 スタッフ集合写真

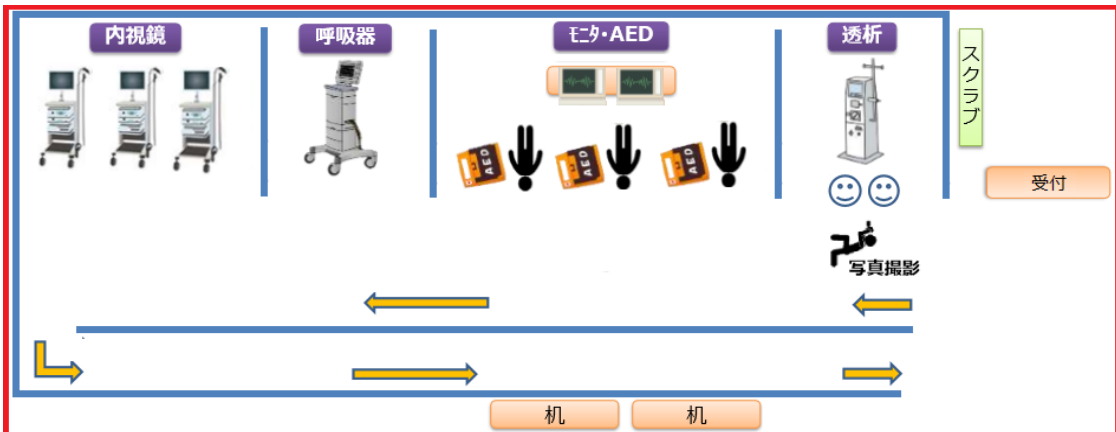


写真3 体験コーナー見取り図

透析ブース、モニタ・AEDブース、呼吸器ブース、内視鏡ブースの4ブースを用意しました(写真3)。スペースの広さは16m×5.5mで行いました。各ブースに子ども向けのパネルを用意し簡易的にブースの説明ができるようにしました。各ブースの担当スタッフが変わっても教え方が統一されるようにスタッフ用のカンペも作成しました。

まずは受付でグループの参加人数と年齢を記入してもらいスクラブに着替え記念撮影を行います。記念写真はその場で印刷をして体験後に職業紹介パンフレット、養成校パンフレットと一緒に渡すようにしました。記念写真には「山口県臨床工学技士会」の帯を印刷して少しでも名前を覚えてもらえるように工夫しました。

透析ブースではダイアライザでミルクティーを濾過して濾液が透明になる様子を観察して、血液ポンプの操作を体験してもらいます。濾過の原理を口で説明しても子どもにはなかなか難しいので、ザルに大きいビー玉と小さいBB弾を一緒に入れ小さいBB弾だけザルを通り抜けるおもちゃを作って説明をしました。

モニタ・AEDブースでは生体情報モニタで酸素飽和度を測定し心臓の動きを感じてもらい、AEDは事前に作成した配布用の簡易取説を渡しトレーニング用AEDで実技指導をし

た後に体験してもらいます。倒れている人を発見したところから AED の取扱いや胸部圧迫までを体験してもらいます。

呼吸器ブースでは呼吸器の換気回数や換気量を変えテストバックの動きに合わせて呼吸をしてもらいます。またテストバックを圧迫して自発呼吸を感知させると呼吸器が空気を送り始める事を体験してもらいます。勢いよく何度も呼吸させていると換気回数の上限が鳴ってビックリする子もいましたが、患者さんが苦しくないように設定してあげることが大切だと説明をしました。

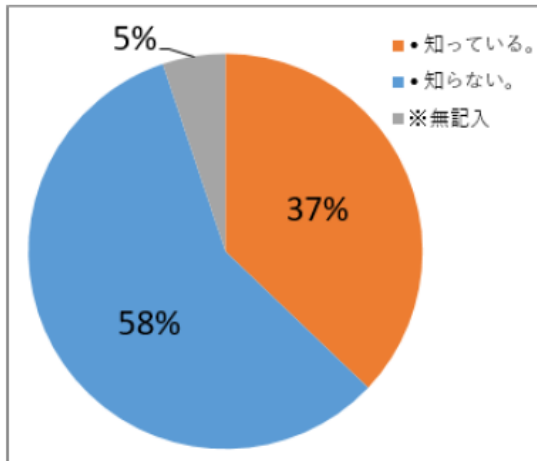
内視鏡ブースでは外科用内視鏡トレーニング機器で内視鏡用鉗子を使って遊ぶゲームを用意しました。輪をフックにかけるゲーム、サイコロを積み上げるゲーム、コップのフチ子さんをコップの淵に乗せる3つのゲームで制限時間は5分に設定しました。内視鏡ゲームはどれも人気でクレーンゲームみたいだと子ども達は喜んでいました（写真4）。



写真4 内視鏡ブース

参加者のアンケート結果によると全体の 37%が臨床工学技士を知っていて仕事内容を知っている方が全体の 34%でした（写真5）。臨床工学技士という職種を知っている方は仕事内容まで把握されている事が分かりました。その内の 18%の方がテレビなどのメディアで知ったと答えられていました。「聞いたことはあるけど知らない」と言う方が少ないのは認知度が上がってきている証拠なのではないかと思えます。

## 臨床工学技士という職種を知っていますか？



## 臨床工学技士の仕事内容を知っていますか？

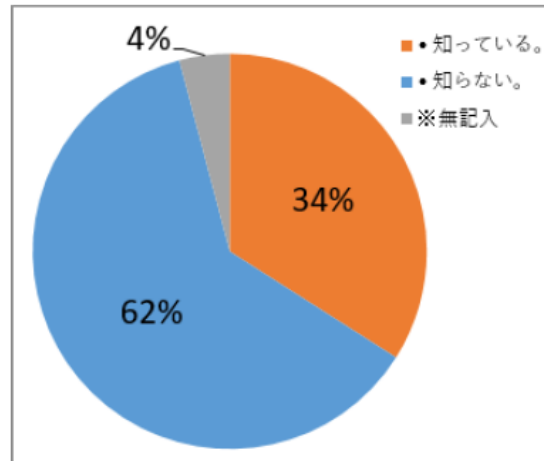


写真5 参加者アンケート結果

アンケートのコメント欄には「内視鏡操作にゲーム性があった楽しかった」という意見が多くありましたので次回からは各ブースでゲーム性を取り入れるように検討しています。そのほかにも親御さんからのコメントで「紙芝居で分かりやすく説明してもらえて実際に触って体験出来たので仕事のイメージが分かり易かった」とありました。待ち時間に参加者が暇にならないようにstattベイン（静脈可視化装置）を用意していた事も高評価でした。また参加スタッフにも体験セミナー後にアンケートを行いました。マニュアル改正に活かすため良かった点と改善した方が良い点を書いてもらいました。「スタンプラリー形式にすればどこのブースを回ったのか一目で分かるのではないか」という意見や「参加者が自主的に動くのではなくタイムキーパーを付けて移動してもらえば混雑せずに済むのではないか」、「スタッフ全員シフト制にして各ブースを担当出来るようにローテーションしてほしい」などがありました。学生からの意見では「実際に現場で働かれている技士さんと交流が出来て刺激になった」、「小さな子どもにも伝わるように教える事で自分の理解も深まった」とありました。学生にとっては授業や病院実習とはまた違う環境で勉強出来るのでいい機会になったのではないかと思います。この体験セミナーに参加した事がきっかけで就職先が決まったと言ったような話が聞けるようになると嬉しいです。

この度は大規模な子ども向けイベントに参加した形だったので広報活動は一切せずに挑みましたが、技士会主催でイベントを行う際は広報活動がかなり重要になってくると思います。これからもイベント参加者とスタッフの笑顔溢れるイベント作りに励んでいきたいと思っています。

